

植 物
防 疫
講 座

病害編-53

モモに発生する病害の生態と防除について

福島県農林水産部環境保全農業課 なな七 うみ海 たか隆 ゆき之

はじめに

モモの国内の結果樹面積は9,300 ha、収穫量が107,300 tであり、果樹の代表的な品目となっている（農林水産省大臣官房統計部，2022）。

国内でモモに発生する病害（センチュウや生理障害を除く）として、54の病名が日本植物病名目録（日本植物病理学会，2022）に記載されている。その内訳は糸状菌42、細菌2、ウイルス・ウイロイド6、病原未確認4であり、ほとんどが糸状菌性病害である。

農薬を使用せずに栽培した場合のモモの平均減収率は70%（日本植物防疫協会，2022）であり、高品質なモモを安定生産するためには病害虫の防除が不可欠である。

本稿ではモモの栽培における主要な病害7種の被害、発生生態および防除対策と、近年新たに病害であることが明らかになったモモ胴枯細菌病について解説する。

I セン孔細菌病

1 被害

枝（一年枝，新梢），葉および果実に発生する。枝に発生した場合は枝の表面に紫黒色の病斑が生じ，やがて亀裂を生じたりかさぶた状になる。春季に一年枝に発生する病斑は春型枝病斑（スプリングキャンカー）と呼ばれ（図-1），症状が進行すると病斑より先端が枯死することもある。また，6～8月ころに新梢に発生する同様の病斑は夏型枝病斑（サマーキャンカー）と呼ばれ（図-2），春型枝病斑とは区別される。

葉に発生した場合は褐色の斑点が生じ，症状の進行とともに病斑が抜け落ちてせん孔する（図-3）。症状がはなはだしい場合は早期落葉するため，樹勢に大きな影響を及ぼす。

果実に発生した場合は，果実の表面に褐色で不整形の果肉に食い込んだ病斑が生じ（図-4），商品価値の著し



図-1 セン孔細菌病の春型枝病斑（福島県農業総合センター果樹研究所より提供）



図-2 セン孔細菌病の夏型枝病斑（福島県農業総合センター果樹研究所より提供）



図-3 セン孔細菌病の被害葉（福島県農業総合センター果樹研究所より提供）

Ecology and Control of Peach Disease. By Takayuki NANAUMI
(キーワード：モモ，病害，発生生態，防除)